

彦春町茜

文想感書誌
論本イ固

第25回

と

第28回

合併号

読書感想文

『国体論』

第25回～第28回合併号

著者：茜町春彦

概要：白井聡著『国体論（集英社新書）』を少しずつ読み進めながら、感想文を投稿しています。
この記事は第25回から第28回の合併号となります。

読者対象：戦前、戦後、そしてこれからの国家体制に関心のある人

第8章では、戦後日本が続ける対米隷属について論じています。

ちょっと引用します。

(P297)・・・日本が巨大な米軍基地を受け入れている理由も、歴史的に二転三転してきた。それは、始まりにおいては敗戦の端的な結果であったのが、「東西対立における日本防衛」へと転じ、日本への直接的な脅威という理由づけの説得力が薄れると「自由世界の防衛」へと転じた。そして、共産圏が消失すると「世界の警察」による「正義」の警察行為のためであるとされ、この「正義」も怪しくなってくると「中国の脅威」、「暴走北朝鮮の脅威」への抑止力であるとされるに至った。これらの二転三転は、これら言われてきたことすべてが真の理由ではないことを物語っている・・・そしてそのただひとつの結論とは、実に単純なことであり、日本は独立国ではなく、そうありたいという意志を持っておらず、かつそのような現状を否認している、という事実である・・・

引用を終わります。

政府は、戦争の火種を世界中にマッチポンプで撒いて歩いているアメリカから、米朝首脳会談で決めたからIAEA査察の費用を負担しろと言われて、即座に負担することを決めましたが、まあ、逆らえるはずもなく、「100%共に」の意味は「100%傀儡で」と云う事だと分かっていますが、情けないと云うか、しょぼいと云うか・・・日本政府の方から先に言い出して費用の分担について主導権を握っていたのなら、まだマシなんですけど・・・言われてから考えるようじゃあねえ・・・

負担する分は、思いやり予算から引くぐらいのことを言う根性を見せて貰いたいものですけどね・・・

ちょっと話がそれましたが、今回はここまでと致します。

(次回へ続く)

後書き

参考文献：

次の文献を参考にしました。

- 国体論：2018年4月22日第1刷発行 白井聡著 集英社新書

C G画像：

次の画像処理ソフトウェアを使用しました。

- ArtRage 3 Studio Pro アンビエント社
- Photoshop Elements 10 アドビシステムズ株式会社

著者：

茜町春彦（あかねまちはるひこ）と申します。

2004年より活動を始めたフリーランスのライター&イラストレーターです。独自のアイデア・考察を社会に提示することをミッションとし、平等で自由な世界の構築を目指して創作活動を行なっております。また、下記WEBサイトに於いても、デジタル作品を公開しております。

- YouTube （動画共有サイト）
- Google+ （ソーシャルネットワークサービス）
- 楽天Kobo電子書籍ストア （ネットショッピングサイト）
- はてなブログ （WEBLOGサービス）
- Facebook ページ （ソーシャルネットワークサービス）
- Pixiv （イラスト投稿サイト）
- カクヨム （小説投稿サイト）
- BOOTH （物販サイト）

その他：

製品名等はメーカー等の登録商標等です。

本書は著作権法により保護されています。

2018年6月14日発行

読書感想文『国体論』第25回～第28回合併号

<http://p.booklog.jp/book/122511>

著者：茜町春彦

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/akaneharu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122511>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト